

【5月 皐月(さつき)】

新緑の月。暦のうえでは立夏と言って、ここから夏の始まりになります。麦が熟し、収穫の時期を迎えることから「^{ばくしゅう}麦秋」といわれます。自然の様々な生き物がどんどん成長する時期を迎えます。

<5月の行事>

- 3日 憲法記念日
- 4日 みどりの日
- 5日 こどもの日(端午の節句)
立夏

たんど 端午の節句

「端午の節句」は、中国から日本に伝来した風習が元となっています。年に五回ある節句(五節句)には邪気が近づきやすいとされ、神様に無病息災を祈念してお供えをする習わしがありました。「端午」とは、「初めの午の日」という意味を持ち、「節句」というのは季節の変わり目のこと。午は、五とも読めることから、5月5日が「端午の節句」として奈良時代以降に定着していきました。

「端午の節句」の他の五節句も、七草粥やひな祭り、七夕など季節を感じられる日本伝統の年中行事として、私たちの暮らしの中に浸透しています。



端午の節句の風習

端午節に菖蒲などの多種の薬草を厄除けに用いることは中国の2つの王朝の文献に記されており、菖蒲は刻んで酒に混ぜて飲む、とあります。

日本では、菖蒲を髪飾りにした人々が宮中の武徳殿に集い、天皇から薬玉(薬草を丸く固めて飾りを付けたもの)を賜ります。かつての貴族社会では、薬玉を作り、お互いに贈りあう習慣もありました。

鎌倉以降の時代になると、「菖蒲」が「尚武」と同じ読みであること、また、菖蒲の葉の形が剣を連想させる事などから、端午は男の子の節句とされ、男の子の成長を祝い、健康を祈るようになりました。鎧、兜、刀、武者人形や金太郎・武蔵坊弁慶を模した五月人形などを室内の飾り段に飾り、庭にこいのぼりを立てるようになりました。鎧兜には、男子の身体を守るという意味合いが込められています。

柏餅

端午の日には柏餅を食べる風習があります。これは日本独自のもので、柏は、新芽が出るまで古い葉が落ちないことから「家系が絶えない」縁起物として広まってきました。

こいのぼり

日本では全国各地でこいのぼりにちなんだ行事が行なわれ、世界に誇る記録的なこいのぼりもあるようです。

◆世界一の大きさ!!

戦前からこいのぼりの生産量では日本一の埼玉県加須市では、1988年に長さ100m、重さ350kgのこいのぼりを作り、全長世界一の大きさで有名になりました。

◆川を泳ぐこいのぼり!?

和紙の生産が盛んな高知県吾川郡いの町では、水に濡れても破れない和紙を用いて作られたこいのぼりが仁淀川に放流され、川下りをしながら水中を泳ぐこいのぼりを遊覧できます。

◆水中からライトアップ!!

石川県金沢市を流れる浅野川では、浅野川大橋と梅ノ橋間で川幅いっぱい泳ぐ200匹のこいのぼりが水中からライトアップされます。

◆掲揚数世界一!!

群馬県館林市では、世界一こいのぼりの里まつりが3月下旬から5月中旬まで開催され5,000匹以上のこいのぼりが鶴生田川、茂林寺川、近藤沼、つつじが岡パークインの4箇所掲揚されます。掲揚数世界一で2005年にギネス世界記録に登録されました。